

# 平成31年度病害虫発生予察注意報第1号

平成31年4月25日  
愛 知 県

作物名：モモ

病害虫名：せん孔細菌病

- 1 発生地域 県内全域
- 2 予想発生程度 多い
- 3 注意報発表の根拠

4月下旬の巡回調査18ほ場において、12ほ場でモモせん孔細菌病の発生を確認した。発生ほ場率66.7%（平年37.9%、前年33.3%）、発病枝率2.8%（平年1.1%、前年0.6%）と、過去10年間と比較して発生ほ場率、発病枝率とも最も高かった。

#### 4 防除対策

- (1) 発病した葉や枝は伝染源となるため、樹勢に影響しない範囲で取り除き、園外へ持ち出すなど処分を徹底する。
- (2) 果実への発病を防ぐため、早めに袋かけを実施する。
- (3) 防風ネットを設置し、防風対策を行う。
- (4) 発生園では下表を参考に薬剤を散布する。特に、強風を伴う降雨が予想される場合は必ず薬剤防除を行う。
- (5) 薬剤の使用にあたっては、薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構が同じ薬剤の連用を控え、異なるFRACコードの薬剤をローテーション散布する（下表参照）。

表 モモせん孔細菌病に対する主な防除薬剤

薬剤名	成分名	使用時期	FRACコード
マイコシールド	オキシテトラサイクリン	収穫21日前まで	41
スターナ水和剤	オキシリニック酸	収穫7日前まで	31
チオノックフロアブル/ トレノックスフロアブル	チウラム	収穫7日前まで	M3
デランフロアブル	ジチアノン	収穫7日前まで	M9
バリダシン液剤5	バリダマイシン	収穫7日前まで	U18

オキシテトラサイクリンを含む農薬には、マイコシールドの他にアグリマイシン-100があるので、総使用回数に注意する。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は[http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code\\_pdf01.pdf](http://www.jcpa.or.jp/lab0/jfrac/pdf/code_pdf01.pdf)を参照する。

薬剤の使用にあたっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

#### 5 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病害虫防除室  
電話：0561-62-0085（内線471）